
11eyes ~もう一人の草壁の剣士~

ざわ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

11eyes～もう一人の草壁の剣士～

【NNコード】

N3459N

【作者名】

ざわ

【あらすじ】

綾女ヶ丘市に引っ越ししてきた初日。赤い夜に巻き込まれた成原龍也。

そこで幼馴染の草壁美鈴と再開する。

龍也は何を思い、何を守るのか・・・

オリ主設定

成原 龍也（旧姓：草壁）

年齢：18歳

身長：181?

体重：69kg

武器：刀、？？？、？？？、？？？

好きな物：甘い物、動物、昼寝

嫌いな物：苦い物

備考

美鈴の幼馴染。幼い頃は美鈴と共に修業していた。

式神などを使いこなす能力はあまり高くはなかつたが刀に関しては8歳の時に『忌剣』を全て習得し、草壁操をも越える剣士と言われ、草壁五宝の所有者になることは確実だった。

しかし、10歳の時の継承試合前日に山に行つたきり戻つて来なかつた。

18歳になつた時に、綾女ヶ丘市に引っ越しした。

引っ越し初日に赤い夜に巻き込まれた。

虹陵館学園では美鈴と同じ3年A組。

髪は駆より短く、黒い。目の色も髪と同じく黒い。
かなりモテるが本人自覚無し。

武器は普通の刀を使うが他にも何かある様子。

1話 赤い夜での再会（前書き）

4話と5話の間から始まります。

1話 赤い夜での再会

「はあ～やつと着いた」

駅の入口にいる一人の青年がため息を尽きながらそんなことを言つた。

「全くよく昨日、すでにひいてるはずだったのに電車が事故で遅れるとは・・・」

黒い髪に髪と同じ色の黒い瞳の青年、成原龍也は文句を言いながら歩いてこの町の自分の家へと向かつた。

龍也の家は一軒家で龍也が一人で住むにはかなり広かつた。

（うーん、広いから掃除は大変だな・・・）

そんなことを考えながら龍也はいろいろな部屋を見て回つていった。

一段落つぐと龍也は自分で煎れたお茶を飲んでくつろいでいた。
不意に家の庭を見ると黒い子猫が庭に迷いこんでいた。

龍也がガラス戸を開くと子猫は龍也に気づき、シャーと威嚇した。
そんな子猫に龍也は

「来いよ。これやるから」

やつぱり冷蔵庫からかつおぶしを持ってきた。

子猫も威嚇を止めて少しずつ少しずつ近づいた。

そして、子猫が撫でられる所まで着て、子猫を撫でようとしたその時・・・

「ぐああああーーー！」

急に強烈な頭痛に龍也は襲われた。

急に龍也が苦しみ出されたので子猫はびっくりして逃げ出した。

そして少しすると硝子が割れるような音がした。

頭痛が止まり、目を開けると、今まで明るかつた空は血のような赤に染まつて暗くなり、黒い月が出ていた。

「何だよ、これは・・・」

龍也はおもわず呟いた。

しかし、龍也はすぐに気を取り直し、辺りを警戒しながら町へと歩き出した。

龍也Side

しばらく住宅地を歩いていたがまったく人がいなかつた。

「一体、どうなってるんだ？」

そんなことを言いながら歩いると周りに人とは違う複数の気配を感じた。

警戒していると地面から人の顔のようなものがついた異形の化け物が足元から現れた。

俺は咄嗟に下がって避けた。

異形の化け物達は次々と現れて、気づいた時にはすでに俺は囲まれていた。

「全く、面倒なことに巻き込まれたな・・・」

俺は右手を前に突き出して、刀を出現させた。

そして俺は襲いかかってくる化け物に刀を向け、横に一閃し、その一撃で化け物を5体、切り伏せた。

俺は右手を前に突き出して、刀を出現させた。

そして俺は襲いかかってくる化け物に刀を向け、横に一閃し、その

一撃で化け物を5体、切り伏せた。俺はその後も次々と向かつて来る化け物を切り伏せて倒していく。

化け物達を全部倒して、再び歩いているとちょっと離れた所で男女達が化け物達と戦っていた。

囮まれていて明らかに不利だった。

俺はその中の一人に目を疑つた。

「美・・鈴・・・」

そこにいたのは赤く長い髪の幼馴染だった。

俺は一度と会うことがないと思つていた。

美鈴は昔とは全然違う動きで化け物を倒していた。

その時、美鈴は化け物達より人間に近い奴が美鈴に襲いかかった。

美鈴は気配に気づいて防いだが更に別の一刀流の奴が美鈴の背後から切り掛かろうとしていた。

俺は持つていた刀を地面に刺し、抜刀の構えを取り、静かに言葉を呴いた。

龍也Side out

駆達は再び赤い夜に引き込まれ、敵に囮まれていた。

「くそ！倒しても倒してもきりがねえ！！」

灰色の髪の青年、田島賢久は倒してもなかなか減らない闇精靈達に

そうぼやいた。

「私達を本格的に潰しに来たわけか・・・はあ・!」

美鈴はそう言いながら前にいた闇精靈を小鳥丸で薙ぎ払つた。
その時、闇精靈の間から『憤怒』の黒騎士、イラが美鈴に襲いかか
つた。

美鈴は咄嗟に攻撃を防いだが

「先輩!…後ろです!…」

駆の声で背後から攻撃して来る『傲慢』の黒騎士のスペルビアに氣
づいたが気づくのが遅くて、攻撃の防ぎようがなかつた。

美鈴にスペルビアの攻撃が当たりそうになつた瞬間、何かがスペル
ビアに当たり吹き飛ばされた。

「一体、なにが・・・」

そう言つて全員が何かが来た方向を見ると黒い髪の青年が立つてい
た。

青年は地面に刺さっていた刀を取ると走つて一気に加速し、美鈴を
切りつけた。

美鈴は防いだが相手の顔を見た瞬間、固まつた。

「龍也!…?」

美鈴の前には幼き日々を共に過ごして八年前に姿を消した幼馴染の
草壁龍也の姿があつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3459n/>

11eyes～もう一人の草壁の剣士～

2010年10月9日13時26分発行